

国際ロータリー第2500地区第6分區

帯広東ロータリークラブ会報

S.Mori



ROTARY
SERVING
HUMANITY

2016-2017年度
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進
幹 事 石 川 博 機
メディア委員長 上野 敏郎

「活：かつ」

第1530回例会

平成28年8月9日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創立：1984年6月15日 ■認証：1984年6月18日 ■例会：毎週火曜日 12:30~13:30
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場：ホテル日航ノースランド帯広



2016-2017年度 国際ロータリーテーマ 【人類に奉仕するロータリー】

2016-2017年度国際ロータリー会長
ジョーンF・ジャーム

ガバナーテーマ 【ロータリーの明日のために、積極的に行動しよう】

国際ロータリー第2500地区 ガバナー
駒形曙美

月間テーマ 【会員増強・新クラブ結成推進月間】

- ◎起 立 加藤雄樹 SAA
- ◎友情の握手 加藤雄樹 SAA
- ◎点 鐘 高田進 会長
- ◎開会宣言 加藤雄樹 SAA
- ◎国歌斉唱 加藤雄樹 SAA
- ◎ロータリーソング 「奉仕の理想」
- ◎ビジター紹介 鎌田勉 副会長

8月結婚記念日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長

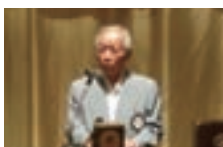
西田重人 会員 昭和50年8月8日

8月誕生日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長



長谷川晃三 会員 大正9年8月10日
加藤昭治 会員 昭和19年8月5日
西田重人 会員 昭和23年8月1日
古川直也 会員 昭和26年8月28日

- ◎パースデーソング 古川直也 親睦活動委員長
- ◎乾 杯 板倉利男 会員
- ◎会 食



会長挨拶 高田進 会長

いよいよリオのオリンピックが開幕しました。少々、陰に隠れている感じがしますが、高校野球も始まっています。新年度に入りアツという間にひと月が過ぎました。良くも悪くもスケジュールは消化されていきます。時間の経過は早く、選挙だ、テロだとさわいでも、すぐ忘れ



られ、次々と新たな出来事、事故、事件が始まります。昨日は天皇のお言葉もテレビで流れました。

私事ですが、前回のオリンピックでは、仕事(公衆浴場)をしておりあまりよく見た記憶がありません。考えてみると22歳から65歳まで、サラリーマン、個人事業と続き、まともな休みは無かったような気がします。今は不動産の賃貸だけになり、以前のような時間の束縛が大幅に減りました。いつからとははっきり意識してはいませんでしたが、いつかはこの形態にしたいと思っていました。計画的に望んだことですが、生活は大きく変わりました。もともと一つには、人生最後までろくに動けなくなるまで公衆浴場をする事は、本来少し違う感じがしており、このままではやり残し感がありました。いったん生活の時間からの束縛をはずれ、違う景色を見たいという漠然としたものがありましたが、3年が過ぎ、今は環境を思い切って変えて良かったと思っています。

旅行もそうですが、ネットによる情報や新聞、書籍へ割く時間が増え情報に対する受止め方が変わり、多くの会合も無くなりました。少々、大げさですが、世の中の見方と人生感覚が以前とは変わった気がします。あまり物事を気にせず、少し世の中から距離をとった目線で眺めると以前とは違う風景と感覚がします。

60歳70歳は多分人生の7~8割を消化したのかな等と感じたりします。

好きな仕事と目的意識を持つことは、多分多くの人と繋がり社会参加することになり、重要なのかなと思います。

会務報告 石川博機 幹事

◎帯広東RC 8月16日(火)は休会と致します。

◎帯広東RC 家族野遊会開催のご案内

日 時：平成28年8月28日(日)
午前10時

場 所：新嵐山スカイパーク
(芽室町新嵐山)

※尚、8月30日(火)の繰上げ例会と致します。



委員会報告

▶ 青少年奉仕・ローターアクト委員会

池田 誠 委員長



みなさんこんにちは。青少年奉仕・ローターアクト委員会から1点お願いがございます。さきほど石川幹事からもお話しがありました、8月28日の家族野遊会とローターアクトのチャリティーソフトボール大会が重なっております。毎年参加しておりましたが、今年はお席できません。今回はエコキャップとリングプルを事前にローターアクトへ持っていきますので、ご協力いただける方は、私池田まで連絡いただければと思います。

ニコニコ献金

親睦活動委員会 加藤 肇 委員

皆さんこんにちは、3例会分ありますので少し長くなります。

7月19日例会分

- **高田会長** 本日、奥原ガバナー補佐初来訪です。宜しくお願いします。
- **石川幹事** 本日は定時総会です。よろしくお祈りします。
- **西藤会員** 奥原ガバナー補佐、ようこそ!!
- **上野会員** 高田年度第1号の会報の最終校正が終わりました。来週に配布予定です。
- **加藤(雄)会員** 世界遺産1日前の国立西洋美術館へ行って来ました。素晴らしかったのでニコニコします。
- **宮前会員** 2015~16の会計報告です。1年間ありがとうございました。
- **加藤(肇)会員** 結婚祝、誕生祝、ありがとうございました。妻とのんびりランチしました。

7月26日例会分

- **高田会長** 駒形ガバナー公式訪問例会です。宜しくお願いします。
- **石川幹事** 駒形ガバナー本日はご苦労様です。
- **曾根会員** 高田会長年度初めての出席です。新年度の弥栄を祈念致します。
- **上野会員** 駒形ガバナーの公式訪問に敬意を表わし、ニコニコします。

8月9日例会分

- **高田会長** 久しぶりの雨で涼しい日になりそうです。夜間例会の写真ありがとうございます。
- **鎌田副会長** 移動夜間例会親睦委員の皆さん、ご苦労様でした。楽しく参加させていただきました。感謝。
- **板倉会員** 8月1日「大臣表彰」受彰の為、妻と上京しました。
- **森会員** 写真ありがとうございました。
- **大塚会員** 小麦の収穫、無事終了しました。只、収量は今一つで良くありません。この後の作物に期待します。
- **馬淵会員** リオ五輪、幕別町出身の福島選手(陸上、100米200米) 桑井選手(女子7人制ラグビー) 山本選手(マウンテンバイク) 頑張れ!
- **齊藤会員** 写真ありがとうございます。



- **上野会員** 写真ありがとうございました。
- **加藤(雄)会員** 青森ねぶたと弘前ねぶたを見て来ました。感動しました。
- **加藤(昭)会員** 結婚記念日のお祝いを頂きありがとうございました。
- **西田会員** 誕生日・結婚記念日・天皇のおことば 誕生日 おめでとう。
- **深澤会員** 写真ありがとうございました。
- **池田会員** 写真ありがとうございました。
- **古川会員** 8月2日の移動夜間例会に多数ご出席頂きまして、大変ありがとうございました。写真は当日分と、キドさんが撮った前年度分も一緒になっております。
- **加藤(武)会員** 夜間例会写真をありがとうございます。
- **角会員** 久しぶりの参加となります!
- **加藤(肇)会員** 先日、献血30回目を行いました。少しでも人の役に立つことを願って。
- **大池会員** 沢山の写真、ありがとうございました!大切にさせていただきます。
- **及川会員** この間の夜間例会では、お祝をしていただきありがとうございました。今後も御指導よろしくお願い致します。
- **橋本会員** 歓迎会ありがとうございました。

プログラム

社会奉仕委員会 齊藤 連輝 委員長

皆さんこんにちは、加藤 S A A には大変配慮頂きましてありがとうございます。今日は社会奉仕とはなんぞやということで大変ロータリー活動を熟知しておられる諸先輩がおられるなかで僭越ではございますが、私なりにまとめたものそれから参考文献から引用したもののいろいろ書いてございますが、これからの時間ご説明をさせていただきます。

まず「社会奉仕とはロータリアン一人ひとりの個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成すること。」となっております。それで温故知新ではありませんが、やはり社会奉仕の誕生はどんなものだったのかなと、そういうことを少しお話しさせていただきたいと思います。



なおこれは社会奉仕という言葉を使っていますが、実は当初は社会奉仕という言葉はございませんでした。1927年のたしかデンバー大会において初めて社会奉仕という言葉が出てくる、それまでは、どの書物にも便宜上社会奉仕という言葉が出ておりましたのでそのとおりに書いておきます。

まず1905年5月23日にシカゴに於いてロータリークラブが設立されました。翌年の1906年ですが定款が7条、

細則が10条のものが制定されましてそれだけで、一つは本クラブ会員の事業上の利益の増大、二つは通常社交クラブの付随する親睦及びその他の特に必要と思われる事項の推進となっております、これはいわゆるロータリーが発足した当時の大きな二つの目的・定款でありました。

会員相互の親睦と物資的相互扶助に重きをおくということをございまして、20世紀初頭にはボランティアということがまだ一般論理でなかったそうであります。ここで面白い事件がありまして、それは入会拒否事件であります。これは社会奉仕意識を喚起するというので大変歴史の中で重要視されてますが、1906年4月にドナルド・M・カーター特許弁護士に拒否される。どういったことで拒否をしたかと言いますと、会員の利益だけを追求するだけで社会的に貢献しない団体は将来性も魅力も無いということを行ったそうであります。いわゆる会員以外の人の役に立つことが、あるいは何か市民に対して奉仕をするべきと思う。そういったことを行ったそうであります。それに対してポール・ハリスは当時ロータリーの在り方、つまりご存じの通りその頃は物資的互惠、親睦にのみ終始すること、こういったことに大変限界を感じていた、そういった考え方を転換すると決意したと。そういったことで定款を改正することを条件にドナルド・M・カーターが入会しております。さっそくこのドナルド・M・カーターは細則を提案致しまして、やはり自分たちの利益だとか親睦だとかを図るのでなくて、社会の繁栄つまり公共復興をしたらどうかと公共復興をすべてということを提案されて、結果1906年12月に定款の3番目としてシカゴ市に最大の利益を推進し市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広げると、ようするにこれが今言われる社会奉仕の考え方だそうであります。

ポール・ハリスは1907年に3代目の会長として就任致しました。ロータリー発足の時はポール・ハリスは初代会長にはなりませんでしたが、1907年にポール・ハリスが会長に就任して以来運動方針の抜本の変更をし、会員増強、クラブ拡大、社会奉仕の実践を提唱したわけでありました。

ここで、最初に社会奉仕事例を申し上げたいと思います。一般的には公衆便所ということですが、実は1907年に会員が例会でイリノイ州説教師の馬が死んで、貧しくて馬を買うことが出来ないこと、そのため田舎の教会だとか教区民の間に行くことができなくなったことを話した。そこで説教師を助けようと、クラブは素早く対応し馬を贈った。このことが自発的な行為が、ロータリアンが最初に行った社会奉仕であり、援助ができるという事実に会員の士気は高まった。ということはこれは実は参考文献として奉仕の史跡、国際ロータリー物語ということで参考文献の中に載っております。

同じ年にポール・ハリスは商工会議所の集まりで、シカゴの中心部にトイレがないという話題を聞きまして、トイレを利用するのが女性であればデパートに入って、化粧品の1つでも買ってトイレを利用させてもらおうと、男性は近くにある居酒屋にそこによってビール1杯でも飲んでそしてトイレを使わせてもらったとそういうことであります。当然それはお金がかかることでありまし

て、そういったことを聞きつけたポール・ハリスはこれこそ奉仕でないかということで、シカゴクラブは25の市民団体の代表を集め連合公衆便所建設委員会を設立しました、そして行政にも働きかけました。そして施設内にトイレを持っている、シカゴ醸造組合、百貨店組合の激しい反対にあう。これは当然ですね。収入が減少することでもありますから。交渉が長引くが、建設用地と20,000ドルの補助金を市役所から受け取ることができた。大変な金額であります。1909年、1907年にこの運動が始まったのですが時間がかかりました。1909年に市役所と公立図書館の横に2つの公衆便所ができた。市民にニーズで市民団体を組織し、行政当局に働きかけて実施にこぎ着けたと、公衆便所の件は単に、金銭を出した団体奉仕活動ではなかったが、その後、シカゴロータリークラブ内で大きな論争を起こす原因となってきたと。

賛同派はポール・ハリス、ドナルド・M・カーター、アーサー・F・シェルドンこの人達は賛同派だったそうあります。まさに少数派でありました。一言だけアーサー・F・シェルドンの事だけで話しますと、この方がいわゆる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」いわゆる標語のいきさつを作った方でありました。こういった賛同派に対して互惠・親睦派はハリー・ラグルス新会長となっておりますがポール・ハリスが辞めた後に4代目会長としてハリー・ラグルスがいわゆる多数派を率いて奉仕に対する懸念とか反対を押し通したということでありました。ハリー・ラグルスは今私たちが例会が始まったときにですね、唱歌をしております。この唱歌を提案したのがハリー・ラグルスだそうあります。ハリー・ラグルスは印刷屋さんだそうです。

その後、1908年になりましてポール・ハリスが会長を辞任します。シェルドンは情報拡大委員長を解かれる。この頃の会長の権限は大変強かったそうあります。そういった中でシェルトンは委員長を解かれたと。そこで全米ロータリークラブ連合会結成されました。これは実はチェスリーペリーで方なんですが、この方はロータリーの機構の建設・組織の建設そういったことが大変たぐいまれな腕前を示したそうあります。

ロータリー運動に奉仕の概念が導入されても、会員の相互扶助(物資的互惠)は、相変わらずだったがそれだけでは駄目だという、その弊害に気付くようになってきたわけでありました。

相互扶助は、物資的互惠から精神的互惠に重きをおくようになる。精神的互惠=「情報交換、アイディア交換、ノウハウの伝授によって商いの習慣の改善、業務の効率化、合理化を図ることによって企業収益をのばす」ということだそうあります。物資的互惠については当時はですね会員間の取引が大いに奨励されました。統計係という係を作って、例えば今週は会員同士誰が誰と取引をした。そういったことを1つの統計を取っていたということです。物資的相互扶助に重きを置いていたのですが、だんだん他に対する奉仕が進んだということで考え方が少し変わってきたということが言われております。

ロータリー運動ということは一般奉仕概念を探究する精神的な場から社会奉仕を実践する場として捉えるクラ

ブがだんだん多くなってまいりました。

エドガー・アレンこの方は身体障害者に対するいろいろな活動をした。この辺から各クラブからですね身体障害者に対して特に子供達に対してですね奉仕をいろいろやってきたとの中で奉仕に対する考え方が二つの考え方に分かれました。「奉仕の心の形成」いわゆる理論派と言われます。これは職業奉仕これは実はそのころは相互扶助以外の分野で奉仕に関する社会的ニーズがあれば会員個人で奉仕するか、クラブは実施母体になるのではなくて、ニーズを世に訴え、盛り上がりの触媒として、機能すべき。社会に何かしたい時は職業上得られた利益から個人的に行うべきだというのがエドガーの考えでありました。

そこで逆にそうじゃないと、「奉仕活動の実践」実践派ですが奉仕の機会を見出しそれを実践することこそ、ロータリー運動の神髄であり、奉仕の心を説き、奉仕の提唱に止まる論理派は責任回避と考えた。

論争としては個人奉仕か団体奉仕か、金銭的奉仕の是非。それから綱領から社会奉仕の項目を外せという、激しい対立が起きました。

先ほど紹介しましたエドガー・アレンとエリリア・クラブに代表される、多額の金銭支出を伴うクラブによる団体奉仕をロータリーの社会奉仕活動として、認めるか否かが論議の中心となった。

社会奉仕活動に対する考え方や行動を調和させることが必要であった。相異なる二つの考え方をロータリーの寛容の精神の下で調和するためにどうするべきか、分裂の危機を避けるべく苦心、努力があったわけでありました。

当時、ロータリアン的一方ではロータリーが所詮クラブ会員相互の利己心に他ならないのではないかという疑念が出てくる。この反省が地域社会に資するという綱領の改正に繋がった。職業奉仕の実践によって得た利潤の一部をもって地域社会の発展のために使用すべきという主張が生まれ、社会奉仕という概念に到達した。

1915年トレード・RCクラブ財源で身体障害児を教育する学校の設立を致しました。エリリア・RCは国際身体障害児協会の誕生とこれは後から問題になります。

各クラブが社会奉仕のための活動に積極的に乗り出そうとした時、理論派が厳しい批判を浴びせた。

第一にロータリーは職業奉仕のための団体。例会で会員がその職業上のアイデアを交換し、その精神を体して事業所で営利事業に従事する。各会員の奉仕的態度そのものにロータリーの実体がある。各職場の人事、労務、財務管理、品質管理、市場開発が上手くいって万人が幸福になることが、社会奉仕である。

第二に社会奉仕の必要性を社会に説きクラブとしてではなく個人として活動すべきである。

これに対して実践派は、すでに青少年問題、その他の社会問題の解決に実績を上げ、それがロータリー本質として、会員相互の協力だけでなく、社会事業を行うこと奉仕団体として意義があると確信すると、言われた訳であります。

特に、身体障害児問題で両派が激しく対立し分裂の危機に直面したわけでありました。RI理事会の態度は二転、

三転し1923年セントルイス大会に入るわけですが「決議23-8 障害児並びにその救助活動に従事する国際的組織を支援せんとする障害児救済に関する方針選択の件」を提案する。これは大変大きな問題なんですね、これは組織の仕事をロータリーが代行し、費用を援助する。年間1ドルの特別人頭分担金を特別に徴収するというもの。これは大変な提案をなされたものであります。

これが理論派の大反対にあいました、これがクラブ自治権の問題にまで起きた訳であります。

これも今年特別人頭分担金4ドルの値上げがあります。これがただだんに4ドルぐらいで良いと考えていたらどうなるのかと思います。

それで大反対キャンペーンが起りまして、テネシー州のナッシュビル・RCが「決議23-34」を提案する。これが有名な「決議23-34」であります。これは最初ですねこういった社会奉仕に関するロータリーの方針となって我々は思っておりますが、最初のタイトルはですね「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針」とつけられた。

これは簡単にいいますと小堀憲助氏の書物には①②が載っておりますが、①各RCは各奉仕活動を行うにあたり完全な独立性を有する。これは大変大事なことであると思います。②各RCは他クラブの活動を無視、軽視してはならない。

RCは「社会奉仕」を会員個人としても団体行動として行っても良い。個人と団体が相まって奉仕活動が行われるということが、この決議の副産物として生まれたのは明確である。

セントルイス大会で、決議された「決議23-34」はその後部分的に幾つかの項目が改正され、タイトルも「社会福祉に関するロータリーの方針」として、現在の形になっている。

これは実は社会奉仕という命題がついたのは「決議26-6」で1926年にですね、社会奉仕という言葉が出てきました。今我々が通常に言っている、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、これらは1927年にそういった言葉が出てきました。社会奉仕という言葉はしばらく立ってから出てきた言葉ですよ、ということでもあります。

最近歳を取ってきたので何回もですね、思考を重ねて作ってみました果たして満足するかどうか、熟知している先輩方にはお笑いぐさだということがあったかも知れませんが一つご寛容の程お願いしたいと思います。

一つだけ申し上げますが、「決議23-34」ここに出てるのはほんの一部です。決議要覧に詳しく載っておりますので一度読んでみるとよろしかなとそのように考えます。

社会奉仕ということで述べさせてもらいました、誠にありがとうございました。

◎閉会宣言

加藤 雄樹 SAA

◎点 鐘

高田 進 会長

次週プログラム

会員増強・ロータリー情報委員会

8月16日(火) 「休 会」

8月23日(火) 「会員卓話」